

|        |   |          |          |       |                       |
|--------|---|----------|----------|-------|-----------------------|
| 学校教育目標 | 「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」<br>○困難なことにもあきらめずに挑戦する子どもを育てます。(知)<br>○物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子どもを育てます。(徳)<br>○自分や人の命を大切にすることをする子どもを育てます。(体)<br>○小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子どもを育てます。(公)<br>○様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子どもを育てます。(開) |          |          |       |                       |
|        | 創立 14 周年<br>児童生徒数: 367 人  | 学校長 場家 誠 | 副校長 前山 健 | 2 学期制 | 一般学級: 12<br>個別支援学級: 3 |
| 学校概要   | 主な関係校: 下瀬谷中学校 瀬谷第二小学校 南瀬谷中学校  |          |          |       |                       |

|   |                         |  |
|---|-------------------------|--|
| 教育課程全体で<br>育成を目指す資質・能力  | ○○中<br>ブロック             | 小中一貫教育推進ブロックにおける<br>育成を目指す資質・能力を踏まえた<br>「9年間で育てる子ども像」と具体的取組                                      |
| ◆学習の基盤となる資質・能力<br><問題発見・解決力><br>◆現代的な諸課題に対応して求められる<br>資質・能力<br><自分づくりに関する力> | 下瀬谷中<br>瀬谷第二小<br>瀬谷さくら小 | 主体的に地域と学ぶ子ども<br>(具体的取り組み)<br>①地域防災拠点小中合同防災訓練 ②小中合同授業研究会<br>③小中交流での合唱披露、職業体験、出張授業、部活体験、授業参観、基礎学習会 |

|        |  |
|--------|--|
| 中期取組目標 | ○身の回りのことに関心をもって問題を発見し、試行錯誤しながら協同的に解決策を見出し実行する、問題発見・解決力を育てます。<br>1年目は、好奇心が生まれ問題を発見するような機会を意図的に設定し、解決策を実行する力を育てます。(2年目以降は前年度を振り返り再検討)<br>2年目は、身の回りのことに関心をもって問題を発見し、試行錯誤しながら協同的に解決策を見出し実行する力を育てます。<br>3年目は、生活や学習から問題を発見し、協働的に解決策を見出し実行し、伝え合うことで自分の考えを深化させる力を育てます。<br>○誰もが安全・安心に生活し、自己発揮できる学びを充実させ、自己肯定感が高まるように、自分づくりに関する力を育てます。<br>「居場所づくり」と「絆づくり」を推進し、自他の違いを認め自他のよさを見出す活動を通して、意思決定する力や粘り強く取り組む態度、地域の為に役立つとする姿勢を育みます。<br>○子どもと大人が目標を共有しやすくするために、学校教育目標を1年後の子どものつばやきに置き換えて取り組んでいきます。 |
|--------|--|

| 重点取組分野                          | 具体的取組  |
|---------------------------------|--|
| <b>知</b> 生きてはたらく知<br>担当 C部会     | ①既習内容の定着と学級づくりのために、スキルタイムの内容・方法を改善する。②「問題発見・解決能力」を育むような授業展開を工夫し、主体的に学べるようにする。③教科横断的な取組など、カリキュラムマネジメントを工夫した足跡が分かるように残し、より実態に合ったカリキュラムを創造する。                         |
| <b>徳</b> 豊かな心<br>担当 B部会         | ①生活目標を2か月ごとの取り組みとし、実践、検証を重ね、より意識して取り組めるようにしていく。②異学年交流を児童主体で行えるように、児童会活動の充実を図る。③幼保小の学びの連続を意識したスタートカリキュラムの充実をはかり6年間の基盤をつくる。  |
| <b>体</b> 健やかな体<br>担当 体育部        | ①複合運動である「なわとび」を継続する。実施期間以外にも継続して自ら取り組むことができる工夫を入れる。②学校保健委員会の内容やテーマについて家庭と共有し、家庭と協力して取り組めるようにする。  |
| <b>公開</b> 自分づくり教育<br>担当 A部会 人権  | ①「自分づくりに関する力」を育む教育活動を工夫する。低中高ごとに学年にあった育みたい内容を考え、「自分づくりに関する力」が育つような学年カリキュラムを工夫する。②各学期末ごと及びキャリアパスポートなどを通して自分を振り返り、自己評価ができるようにする。                                     |
| <b>いじめへの対応</b><br>担当 いじめ防止対策委員会 | ①いじめ防止対策委員会を中心として、いじめについての職員の共通認識を図り、全職員の感度を上げる。②年2回のいじめ防止研修を実施し、具体的な対応方法を学ぶ。③認知されたいじめ案件の経過確認を組織的に行い、解消へ向けた取組を進める。   |
| <b>人材育成・組織運営(働き方)</b><br>担当     | ①主任会や4部会を通して学校運営をボトムアップで進めるとともにミドルリーダーを育成する。②キャリアステージ(メンター、ミドル、教務)に応じた研修を行い学び続ける職員集団をめざす。③ブロック研の時間を確保したり、職員が研修しやすい体制を行ったりして、職員同士のコミュニケーションの活性化を図り、より働きやすい職場づくりをする。 |
| <b>特別支援教育</b><br>担当 重点・さくらT・B部会 | ①教室環境や授業方法などの本校に合ったユニバーサルデザイン化を進める。②誰もが安心して学ぶことができる「さくらルーム・さくらんぼ」の環境整備と内容の充実をはかる。学習支援と合わせ、登校支援としての役割を整理して、児童の支援につなげる。  |
| <b>ICTの活用</b><br>担当 D部会         | ①よりわかる授業づくりの推進のために、ICT機器を積極的に利用していく。②学校HPや学校便り等も活用して、日々の学習活動や便りの電子情報配信も継続する。③個人情報保護法を徹底し、情報モラルを含めたiPadの使い方についても指導する。情報モラル教育を推進していく。                                |
| <b>児童生徒指導</b><br>担当 B部会・教務      | ①毎月の児童情報の共有を継続する。また、問題の未然防止のために定期的に児童理解研修を行い、指導力の向上を図る。②ブロック研や主任会で情報交換を密にし、年3回の「居場所づくり」と「絆づくり」の学校生活アンケートの数値をもとに、工夫した取組を引き続き行う。                                     |
| <b>地域連携・学校運営協議会</b><br>担当 A部会   | ①学校運営協議会と連携し、生活科や総合的な学習の時間をはじめ、各教科等で「このまち大好き」で示される児童の育成につながる教育活動を実践する。②保護者・地域と連携し、持続可能な登下校見守りの体制づくりを進める。   |